

経済学部A方式Ⅱ日程・社会学部A方式Ⅱ日程
スポーツ健康学部A方式

3 限 選 択 科 目 (60分)

| 科 目 | ペー ジ | 科 目 | ペー ジ |
|-------|-------|-------|-------|
| 政治・経済 | 2～22 | 日 本 史 | 24～40 |
| 世 界 史 | 42～59 | 地 理 | 60～70 |
| 数 学 | 72～77 | | |

〈注意事項〉

- 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないこと。
- 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
- 科目の選択は、受験しようとする科目の解答用紙を選択した時点で決定となる。一度選択した科目の変更は一切認めない。
- 数学は以下の注意事項に従うこと。
 - 解答用紙の所定欄の受験学部を○で囲むこと。
 - 解答はおもて面と裏面の所定の位置に、上下の方向に気をつけて記入すること。
 - 解答を導く途中経過も書くこと。
 - その他、解答用紙に記載された指示にしたがい解答すること(この指示どおりでない場合は採点の対象としない)。
 - 定規、コンパス、電卓の使用は認めない。
- マークシート解答方法については以下の注意事項を読みなさい。

マークシート解答方法についての注意

マークシート解答では、鉛筆でマークしたものを機械が直接読みとって採点する。したがって解答はHBの黒鉛筆でマークすること(万年筆、ボールペン、シャープペンシルなどを使用しないこと)。

記入上の注意

- 記入例 解答を3にマークする場合。

(1) 正しいマークの例



(2) 悪いマークの例



枠外にはみださないこと。

○でかこまないこと。

- 解答を訂正する場合は、消しゴムでよく消してから、あらためてマークすること。
- 解答用紙をよごしたり、折りまげたりしないこと。
- 問題に指定された数よりも多くマークしないこと。

- 問題冊子のページを切り離さないこと。

(世界史)

〔 I 〕 次の文章を読み、以下の問いに答えよ。

ローマの政治組織と軍組織との関係の変遷は、今日でも多くの示唆を私達に与えてくれる。 [あ] は『歴史』において、政体循環史観に基づき、ローマ興隆の要因を政体論から論じた。 [あ] によれば、ギリシアではポリスが王政から貴族政になり、それが僭主政へと墮落し、その反動で民主政が生じても結局衆愚政となって再び王政に戻り、政体が安定しなかったが、ローマは王政と貴族政と民主政の要素が、それぞれ [①]、元老院、民会という形で一つの政体の中に含まれている混合政体であるゆえ、政体が安定し興隆できた、とされる。ただし、 [あ] がこの書を記したのは、ポエニ戦争で最終的にローマが勝利した時期であり、その後のローマの歴史が示しているのは、政体の安定どころか、この混合政体が変形し、崩壊する過程である。

ローマは、 [(I)] 人が定住し形成した都市国家にその起源がある。一時期ローマは、 [(II)] 人の王に支配されたが、前6世紀末に王を追放し、共和政が成立した。王政時代に王の補佐機関として氏族の長によって構成されていた元老院が行政、立法、財政、宗教などの決定権をもち、王に代わって任期1年の2名の [①] が民会の一つである兵員会によって選出されるようになったのである。また、非常時には任期6か月で全権をもつ [②] が任命された。ただし、 [①] と300名の終身議員からなる元老院は、パトリキ(貴族)によって独占され、中小の土地所有者であったプレブス(平民)は共和政当初、政治的権利が制限されていた。しかし、イタリア半島全体に勢力伸張していった時期のローマの軍事力の中心となっていたのは自弁で武装したプレブスから成る重装歩兵軍だったので、プレブスは自らの軍事的貢献を背景に、貴族に対抗して政治的権利を要求した。この闘争の結果、前5世紀初めにプレブスだけで組織される民会である平民会と、この平民会によって選出される [③] とが制度化された。さらに、前5世紀半ばには、それまでの慣習法が [A] として成文化された。

前4世紀半ばには [①] の2名中1名は平民より選出することを定めた [B] が、さらに前287年には、平民会での議決を元老院の承認なしにそのまま国法とすることを定めた [C] が制定され、プレブスはパトリキと対等な政治的権利を獲得した。上述の [あ] が混合政体として捉えたローマ共和政は、プレブスとパトリキの間の身分闘争の結果生じた政体であった。この政体の中で、平民会を率いる上層プレブスとパトリキは協力して政権を支配し、 [④] と呼ばれる新支配層を形成した。

しかし、ローマの進軍がイタリア半島からさらに西地中海へと拡大するにつれ、⁽¹⁾プレブスに深刻な変化が生じた。遠方の戦地への派遣は、自弁で軍役を務めていたプレブスにとって費用と時間の多大な負担となり、自らの耕地の荒廃を招き、それに属州からの安価な穀物の流入が追い打ちをかけた。土地財産を失い、無産⁽²⁾市民となったプレブスは軍役奉仕ができず、従来の軍制度は立ち行かなくなった。また、プレブスが経済的自立性を失ったことによって共和政も変質した。前2世紀後半に、プレブスに土地を再分配して、自弁の軍役を務めうる自作農を再建しようとしたのが [い] であったが、この改革は閥族派によってつぶされた。以降、平民派と閥族派の対立は激化し、以降1世紀間、内乱が続くことになった。内乱を長期化させた一因は、前107年に、 [①] となった [D] が行った軍制改革であった。これは、従来従軍に必要とされていた財産資格を撤廃し、武器と相応の退職金を支給して、志願兵として無産市民を動員する「職業軍人制」と呼ばれる改革だった。これによってローマの軍事力は回復したが、個々の軍団は募集した将軍や政治家に率いられる私兵のような存在であったので、以降、有力者が自己の軍事力を行使して政権を奪取することが続出するようになった。

この抗争のなかで、軍事的に勝利し、共和政体を解体し、帝政への礎を築いたのがカエサルであった。 [う] と [え] と盟約を結び、前60年に平民派の政治家として第一回三頭政治を実現したが、その後、ガリア遠征に成功して富と自軍の軍備を増強し、これを警戒した元老院と対立した。 [え] がパルティア遠征で戦死したことで三頭政治の結束は緩み、その結果、 [う] は元老院と手を結んだ。 [う] と闘うために、カエサルは法を侵犯し、軍を率いたままルビコン川を渡り、ローマの域内に入った。そして、カエサルは敗走した

世界史

う を追ってエジプトまで遠征した後、前46年に終身の ② となり、翌年、元老院から最高司令官を意味する ⑤ の称号を贈られた。だが、前44年に、元老院中心の共和政の存続を望んでカエサルの諸改革に抵抗する お にカエサルは暗殺された。

カエサルの死後、部下であったアントニウスは ① としてローマで共和派との妥協を図った。一方、カエサルの養子オクタウィアヌスはカエサルの軍団を引き継いでローマに戻りアントニウスと対立したが、元老院の共和派勢力に対抗するため、アントニウス並びに か と前43年に同盟を結んだ(第二回三頭政治)。この同盟成立の過程で、元老院の保守派であり、『国家論』を著した高名な政治家であった E は失脚し暗殺された。しかし、当初から亀裂を含んでいた三頭政治は内戦で崩壊し、前31年にオクタウィアヌスの軍事的勝利で終わった。前29年に元老院はオクタウィアヌスに「市民の第一人者、元老院の筆頭議員」を意味する ⑥ の称号を贈ったが、前27年にオクタウィアヌスは非常時の大権を元老院に返還した。元老院は、属州統治などのためのローマ全軍の指揮権をオクタウィアヌスに再び与え、 ⑦ の称号を贈った。こうして、元老院などの共和政の制度を残したうえで、元老院から一者に政治的・軍事的権限が集中して与えられる元首政と呼ばれる政体が成立した。元首政においては、⁽⁴⁾軍隊は常備軍化し兵民分離が進んだが、これが後に大きな要因となって⁽⁵⁾元首政は崩壊した。

問1 空欄 あ ～ か にもっとも適したものを以下の語群から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | | |
|-----------|-----------|------------|
| a ウァレリアヌス | b ウェルギリウス | c グラックス兄弟 |
| d クラッスス | e スキピオ | f スパルタクス |
| g タキトゥス | h テオドシウス | i ハドリアヌス |
| j ブルートゥス | k プルタルコス | l ヘロドトス |
| m ポリビオス | n ポンペイウス | o ユスティニアヌス |
| p ユリアヌス | q リウイウス | r レピドゥス |

問2 空欄 にもっとも適したものを以下の語群から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a ウンブリア b エトルリア c オスク d ガリア
e サムニウム f ダキア g ラテン

問3 空欄 ～ にもっとも適したものを以下の語群から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a アウグストゥス b アルコン c インペラトル
d エクイテス e オプティマテス f クリエンテス
g 護民官 h コンスル i ストラデコス
j 僭主 k 総督 l ディアドコイ
m ディクタトル(独裁官) n デーモス
o ドミナートゥス p ノビレス q プリンケプス
r プロレタリア s ポプラレス t マヨル＝ドムス

問4 空欄 ～ にもっとも適した法律名を、
 には人名を、解答欄に記せ。

問5 下線部(1)に関連する説明として誤っているものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。すべて正しい場合はオを選べ。

ア 前272年にギリシア人都市タレントゥムを攻略して、イタリア半島統一が達成された。

イ 第一次ポエニ戦争では、カルタゴからシチリアを獲得し属州化した。

ウ 第二次ポエニ戦争では、カンネーの戦いでローマ軍はハンニバル率いるカルタゴ軍に大敗した。

エ 第三次ポエニ戦争で、ローマ軍はハンニバルをザマの戦いで破った。

オ すべて正しい。

世界史

問6 下線部(2)のプレブスの没落の一方で、新たに形成されたラティフンディアについて述べた説明として誤っているものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。すべて正しい場合はオを選べ。

- ア 富裕層は征服活動で得た公有地を次第に私有地化して、大所領を形成した。
- イ 被征服民をコロヌスと呼ばれる農業奴隷として使用したので、安価な食糧生産が可能になった。
- ウ ラティフンディアで利を得たのは、主に属州統治の任務を負った元老院議員や属州の徴税請負を行う騎士階層であった。
- エ 第二次ポエニ戦争以降、急速に発達した。
- オ すべて正しい。

問7 下線部(3)に関連する説明として誤っているものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。すべて正しい場合はオを選べ。

- ア 第二回三頭政治の間、アントニウスは東方の地域、オクタウィアヌスは西方の地域の支配を分担していた。
- イ アントニウスは、クレオパトラと結んで彼女の弟であった王を打倒し、彼女をプトレマイオス朝エジプトの女王の座につけた。
- ウ ギリシア西岸沖のアクティウムの海戦でオクタウィアヌス軍はアントニウス・クレオパトラ連合軍に勝利した。
- エ 前31年の勝利の後、オクタウィアヌス軍はさらにエジプトを征服して地中海周辺のおもだった地域の制覇を達成した。
- オ すべて正しい。

問8 下線部(4)の時期のローマについての説明として誤っているものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。すべて正しい場合はオを選べ。

- ア ネロ帝はキリスト教徒をローマ大火の犯人として迫害した。
- イ 『ローマ法大全』が編纂された。
- ウ ネルヴァ帝からマルクス＝アウレリウス＝アントニヌス帝まで五賢帝と呼ばれる有能な皇帝が続いた。
- エ トラヤヌス帝の治世時に帝国は最大版図を実現した。
- オ すべて正しい。

問9 下線部(5)に関連する要因の説明として誤っているものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。すべて正しい場合はオを選べ。

- ア 北からのゲルマン系諸部族の侵入、東からのササン朝ペルシアの攻撃を受け、4世紀になると軍の支持の有無次第で皇帝が殺害され、頻繁に帝位が変わるようになった。
- イ ディオクレティアヌス帝は、皇帝をまずは正帝2名、さらに帝位相続者としての副帝2名に複数化し分担して統治することで帝国の再編を図った。
- ウ ディオクレティアヌス帝は、皇帝を神聖化し崇拝を徹底させるために、キリスト教を迫害した。
- エ コンスタンティヌス帝は、324年に単独皇帝となることで帝国を一時期再統一した。
- オ すべて正しい。

世界史

〔Ⅱ〕 次の文章を読み、以下の問いに答えよ。

17世紀のヨーロッパでは、自然界の研究が著しい進歩を遂げ、本格的な科学革命の時代が到来した。⁽¹⁾望遠鏡を改良して天体観測をおこない、月の凹凸や太陽の黒点などを発見したガリレイ(ガリレオ=ガリレイ)や、惑星運行における発見を3法則に理論化し、⁽²⁾地動説に数理的な基礎を与えた の研究があらわすように、従来の思考の枠組みは崩れ、新しい宇宙観や物質観が誕生した時代であった。解析幾何学の創始者となったデカルト、⁽³⁾計算機の発明家であったパスカル、⁽⁴⁾単子(モナド)論を展開し、微分積分法の研究を進め、1700年にはベルリン科学アカデミーの前身となる機関の設立にも関わった は、近代数学の基礎を築いたことで知られる。18世紀に入っても、星雲説を発展させて宇宙進化論を説いた 、物体の燃焼が酸素との結合によることを理論化し、「質量保存の法則」を確立した 、植物分類法を体系化して『自然の体系』を著した などによって、めざましい研究の成果がみられた。

学問の方法論に対する新しい意識は、中世ヨーロッパにおいて成立したスコラ哲学(スコラ学)の伝統から距離をとり、⁽⁵⁾理性に則って、数学的な論証法を用いたデカルトの高度な思考作業にも明確にあらわれている。イギリスの経験論とヨーロッパ大陸で発展した合理論を経て、18世紀末には⁽⁶⁾カントが登場した。カントの⁽⁷⁾哲学は、ドイツ観念論哲学として⁽⁸⁾フィヒテ、シェリング、ヘーゲルへ受け継がれていった。

18世紀は啓蒙の時代と言われる。宗教や古い権威を恐れず、迷信や偏見がもたらす蒙昧に理性の光を当て、事物のあらたな検討を試みた哲学者たちは、教会や既存の社会体制を容赦なく批判した。モンテスキューの『法の精神』は大反響を呼び、⁽⁹⁾たちまち版を重ねた。同じ時期に『百科全書』の企画も進められ、ディドロとが編纂にあたった。執筆者数は160人以上、項目数は約6万にのぼり、が序文ならびに数学の項目を書いた。ヴォルテール、ルソーといった⁽¹⁰⁾⁽¹¹⁾時代を代表する思想家のみならず、ルイ15世の侍医で、『経済表』を著し、富の源泉は農業にあるとみなして富の再生産過程を考察した 、ルイ16世下で財務総監に抜擢され、ギルドの廃止や穀物取引の自由化などを通じて国家財政の

再建を目指し、特権階級の反発を受けて失脚した のように、重農主義⁽¹²⁾ を標榜した経済学者なども執筆者として名を連ねている。当時の進歩的な知識人や科学者が参加し、職人や技師の協力も得て発刊された『百科全書』は、近代合理主義に立脚した知識の普及という点で大きな役割を果たした。

『百科全書』が示した、理性に基づく新しい秩序は、宗教界を中心に大きな反発も招いた。『百科全書』を危険思想と見なす向きは第一巻の刊行当初からあり、第二巻が出版された1752年に、国王を座長とする枢密会議は最初の二巻を発禁処分にした。しかし、後続巻の刊行を望む声はフランス中で強く、体制内でデイドロたちの編集活動を支持する啓蒙派の貴族も少なからず存在した。ルイ15世の愛妾ポンパドゥール夫人は、国王に出版の続行を提言したひとりであったと言われる。実際に、ポンパドゥール夫人は、ヴォルテールやデイドロ、 といった百科全書派と交流をもち、サロンを開いて学芸の保護に努めた人物であった。パリのルーヴル美術館が所蔵する、1755年頃に制作されたポンパドゥール夫人の肖像画を見ると、夫人とともに、『法の精神』や『百科全書』などが描かれている。枢密会議は1759年にも『百科全書』に対する出版許可の取り消し、印刷・配布の禁止を決定しており、この出版事業には以後も多くの困難が伴った。しかし、デイドロの懸命な努力によって、20年以上の歳月を費やし、完成に至った。

問1 空欄 ～ にもっとも適した人名を以下の語群から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | | |
|----------|-----------|----------|
| a エル＝グレコ | b キュリー | c ケネー |
| d ケプラー | e コルネイユ | f ダランベール |
| g テュルゴー | h ファン＝ダイク | i ヘルムホルツ |
| j ボシュエ | k マイヤー | l マルコーニ |
| m メンデル | n モリエール | o ライプニッツ |
| p ラヴォワジエ | q ラシーヌ | r ラプラス |
| s ランケ | t リスト | u リンネ |
| v ルーベンス | w レントゲン | x ワトー |

世界史

問2 下線部(1)について述べた説明として正しいものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 科学革命は、15世紀半ばに地動説を唱えたコペルニクスを嚆矢とし、17世紀に至って本格化した。

イ 科学革命の先駆者とされるジョルダーノ＝ブルーノは、宗教裁判で著書の『天球回転論』が問われ、異端とされた。

ウ ボイルは、気体の圧力と体積の関係を解明し、イギリスにおいて王立協会にも参加した。

エ フランスの科学アカデミーは、宰相リシュリユーによって1666年に設立された。

問3 下線部(2)のガリレイ(ガリレオ＝ガリレイ)について述べた説明として誤っているものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。すべて正しい場合はオを選べ。

ア イタリアの科学者で、ピサ大学で教鞭をとった。

イ 物体落下の法則を主張した。

ウ 木星の衛星を発見した。

エ 宗教裁判において地動説の放棄を拒否し、火刑に処された。

オ すべて正しい。

問4 下線部(3)のデカルトについて述べた説明として正しいものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 帰納法による思考法を確立した。

イ 『方法序(叙)説』を発刊した。

ウ 自らの哲学の根本を成す言葉として、「人間は考える葦である」を残した。

エ 確率論の創始者となった。

問5 下線部(4)に関して、1670年に発刊されたパスカルの遺稿集として正しいものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 『エッセー』(『随想録』) イ 『エチカ』(『倫理学』)
ウ 『海洋自由論』 エ 『パンセ』(『瞑想録』)

問6 下線部(5)に関して、『神学大全』の著者で、実在論と唯名論の対立に起因する普遍論争の解決へ向けて尽力したスコラ哲学者としてもっとも適した人名を次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア アンセルムス イ ウィリアム＝オブ＝オッカム
ウ トマス＝アクィナス エ ロジャー＝ベーコン

問7 下線部(6)に関して、『新オルガヌム』の著者で、イギリス経験論の祖としてもっとも適した人名を次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア ヒューム イ フランシス＝ベーコン
ウ ホッブズ エ ロック

問8 下線部(7)のカントについての説明として正しいものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 批判哲学を展開し、『純粹理性批判』を著した。
イ ヨーロッパ文明の退廃はキリスト教に因るとし、「神は死んだ」の言葉を残した。
ウ ユダヤ教を学んだが批判的見解を抱いて破門となり、物質と精神は神の属性とみなす汎神論に至った。
エ 人為的な文明社会を批判し、人民主権論を展開して「自然にかえれ」と述べた。

世界史

問9 下線部(8)に関連して、フィヒテ、シェリング、ヘーゲルについての説明として正しいものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア フィヒテは、客観的観念論を確立した。

イ シェリングは、フランス軍占領下のベルリンで「ドイツ国民に告ぐ」と題した講演をおこなった。

ウ シェリングは、フンボルトらが創立したベルリン大学で初代総長を務めた。

エ 弁証法哲学を取り入れたヘーゲルは、ドイツ観念論哲学を大成した。

問10 下線部(9)についての説明として誤っているものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。すべて正しい場合はオを選べ。

ア 『法の精神』には、モンテスキュー自身がヨーロッパを歴訪した経験が反映されている。

イ モンテスキューは、『法の精神』で三権分立を主張した。

ウ モンテスキューは、『法の精神』において、君主の専制を防ぐ目的で貴族の特権は認めるべきと述べた。

エ モンテスキューは、『法の精神』において、イギリスの制度を否定した。

オ すべて正しい。

問11 下線部(10)に関して、ヴォルテールはプロイセンのフリードリヒ2世の招きで一時期をポツダムのサンサーシ宮殿で過ごした。この宮殿の様式として正しいものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア ゴシック様式

イ バロック様式

ウ ロココ様式

エ ロマネスク様式

世界史

〔Ⅲ〕 次の文章を読み、以下の問いに答えよ。

19世紀、ヨーロッパでは産業革命で生産性が向上した。工業化が進み、人びとの生活様式が変化するなか、原材料や消費財の新たな供給地、ならびに生産した商品を売るための新たな市場が必要とされた。それまで、アフリカ大陸で奴隷貿易を通じてヨーロッパ諸国の支配が及んでいたのは、沿岸部に限られていた。しかし19世紀後半、探検家によってアフリカ大陸内部の様子が明らかになると、ヨーロッパ諸国の間で内陸部への関心が高まっていった。

□ 1 □ はアフリカ大陸南部を旅行し、その後のザンベジ川の探検で見つけた瀑布を □ A □ の滝と名づけたイギリス出身の宣教師である。彼は続く □ B □ 川の水源調査で一時消息不明となったが、 □ 2 □ による捜索で見つかった。このイギリス出身のアメリカ人ジャーナリストの □ 2 □ は、アフリカ大陸中部に位置するコンゴ川の流路の確認に成功した人物である。この際、植民地獲得に意欲的だった当時のベルギー国王から援助を受け、密使として仕えていた。このコンゴ川流域の大部分は、現コンゴ民主共和国(以下「コンゴ」)にあたる。この地域は、1884～85年開催の会議でベルギー国王のものとなり、コンゴ自由国が誕生した。⁽³⁾コンゴ自由国では、当時世界市場で需要が高まっていたゴムや象牙を輸出するために、人びとが過酷な労働を強制された。ノルマを達成できなければ激しい拷問を与える非人道的な収奪と暴力は、現地の事態を知る貿易関係者の出版物で広く知られることになった。ベルギー国王に対する国際的な非難の声が大きくなった結果、1908年、コンゴはベルギー国王の私的植民地ではなくベルギー政府の植民地になった。

この植民地開発の過程で、コンゴでは豊富な鉱脈が発見された。植民地宗主国のベルギーは、銅やコバルト、スズ、マンガン、ウラン、金、ダイヤモンドなどの鉱物で巨額の富を得ることができた。しかし、20世紀半ばにかけて世界では反帝国主義の声が大きくなり、アフリカ独立の機運が高まっていった。コンゴもベルギーから独立を果たしたが、⁽⁴⁾その直後からコンゴ動乱が始まった。当時、鉱物開発・産業の中心だった □ C □ 州の分離独立運動が起き、各地で暴動が発生したのである。宗主国だったベルギーは、この地域に対する影響力を維持したか

った。このため、コンゴからの分離・独立を支持し、軍を介入させた。動乱のなか、コンゴの独立運動の指導者で初代首相の は殺害された。

その後、1965年に政権の座に就いたのは である。1997年まで長期にわたって独裁体制を維持するなか、経済大国はこの政権を経済支援することで鉱物を安定的に手に入れてきた。レアメタルも豊富に見つかり、現在コンゴから採掘される鉱物は、スマホやパソコン、ゲーム機、家電、自動車、航空宇宙など世界中のさまざまな産業で利用されている。現地では、資源を求める他国や武装勢力による介入・侵攻が繰り返され、人びとは暴力と貧困のなかで生活している。

現南アフリカ共和国も鉱物資源が豊かである。この地域に先住していたアフリカ系の人びとは牧畜や狩猟、採集を営み暮らしていた。そこにヨーロッパ人が入植し始めたのは、17世紀からである。地中海と類似した気候のためにヨーロッパ人にとって過ごしやすく、ヨーロッパで慣れ親しんでいたブドウや小麦などの農作物の生産が可能だった。入植したヨーロッパ系移民たちは、ほかの地域から連れてきた奴隷や先住していたアフリカ系の人びとを使用し、農場を経営した。その後18世紀末、イギリスが 地方に進出し、軍人を送り込んだ。現地で暮らしていたヨーロッパ系移民は、土地と労働力を求めて北へ大移動を開始し、⁽⁵⁾アフリカ系先住民と戦い、土地を占領して国家を建国した。しかし、そこでダイヤモンド鉱脈や金鉱脈が見つかる⁽⁶⁾と、イギリスが侵攻し、南アフリカ戦争が勃発⁽⁷⁾した。

はアフリカ大陸南部で帝国主義政策を進めたイギリスの企業家・政治家である。現南アフリカ共和国に位置するダイヤモンド鉱脈の採掘と産業化に成功し、デビアス社を設立した。彼は政界にも進出し、1890年にイギリスの 植民地の首相になった。その後、イギリスの勢力拡大を目指してリンポポ川以北にも進出し、イギリス領ローデシア⁽⁸⁾を誕生させた。彼は大英帝国の一部として広大な南アフリカ植民地を形成するために、他国の進出⁽⁹⁾を阻止しようとしたことでも知られている。こうした植民地主義や帝国主義の背景には、経済的な動機があった。しかし、侵略と植民地化は、「進んだ」人びとが「後れた」人びとを幸福にし、文明化する事業として正当化された。

世界史

問1 空欄 ～ にもっとも適したものを以下の語群から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | |
|----------------|--------|
| a カストロ | b カーター |
| c ケニヤッタ | d サルトル |
| e スタンリー | f スハルト |
| g デクラーク | h テドロス |
| i マルサス | j ムーサ |
| k ムバラク | l モブツ |
| m リヴィングストン | n ルムンバ |
| o ローズ(セシル＝ローズ) | |

問2 空欄 ～ にもっとも適したものを以下の語群から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | | |
|----------|------------|----------|
| a ヴィクトリア | b エリトリア | c カトマンズ |
| d カタンガ | e ギニア | f クシュ |
| g ケープ | h ゴールドコースト | i タンガニーカ |
| j ナイル | k ニジェール | l ベルベル |

問3 下線部(1)のベルギー国王の名として正しいものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | |
|--------------|-------------|
| ア アルフォンソ13世 | イ カルロ＝アルベルト |
| ウ フアン＝カルロス1世 | エ レオポルド2世 |

問4 下線部(2)に関連する説明として正しいものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア コンゴ民主共和国が位置する地域では、コンゴ王国が栄えていたが、衰退した。

イ コンゴ民主共和国が位置する地域には、かつてサハラ砂漠を縦断する交易都市のトンブクトゥがあり、「黄金郷」と呼ばれていた。

ウ コンゴ民主共和国が位置する地域には、ベルギー国王が支配する以前にイギリスが進出していた。

エ コンゴ民主共和国が位置する地域には、かつてザンジバルという大西洋交易の重要拠点があり、ここから内陸部にイスラーム教が広がった。

問5 下線部(3)の会議は、アフリカの植民地化の原則を列強の間で定め、アフリカ分割を加速化させた。この会議の名称として正しいものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア ウィーン会議

イ ブリュッセル会議

ウ ベルリン会議

エ モスクワ会議

問6 下線部(4)に関連して、第二次世界大戦終結時に独立していたサハラ砂漠より南のアフリカの国を次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア エジプト

イ マリ

ウ リベリア

エ ルワンダ

世界史

問7 下線部(4)について、ンクルマ(エンクルマ)はアフリカの独立運動の中心メンバーだった。彼が指導者になり、1957年に植民地支配から独立を果たした国として正しいものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | |
|----------|---------|
| ア ガーナ | イ カメルーン |
| ウ ナイジェリア | エ ニジェール |

問8 下線部(4)について、コンゴを含む17の独立国が誕生することで、「アフリカの年」と呼ばれるようになった年として正しいものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| ア 1957年 | イ 1958年 | ウ 1959年 | エ 1960年 |
|---------|---------|---------|---------|

問9 下線部(5)を何というか。正しいものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | |
|-------------|----------|
| ア グレート＝トレック | イ 「塩の行進」 |
| ウ ディアスポラ | エ 「涙の旅路」 |

問10 下線部(6)で建国された国家として**間違っているもの**を次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | |
|---------------|-----------|
| ア ズールー王国 | イ オレンジ自由国 |
| ウ トランスヴァール共和国 | エ ナタール |

問11 下線部(7)の説明として間違っているものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 南アフリカ戦争はブール(ボーア)戦争とも呼ばれる。
- イ 南アフリカ戦争後、イギリスはブール人と和解を図った。
- ウ 南アフリカ戦争では、アフリカ系の先住民がイギリスとブール人側の双方で戦闘に用いられた。
- エ 南アフリカ戦争でイギリスが勝利し、南アフリカ共和国が誕生した。

問12 下線部(8)のローデシアが位置していた地域の現在の国名として正しいものを下記のア～カから二つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア ザンビア イ ジンバブエ ウ セネガル
- エ チャド オ モーリタニア カ リビア

問13 下線部(9)について、アフリカ大陸南部に進出した国とその植民地の現在の国名の組み合わせとして正しいものを下記のア～カから二つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア スペイン－ソマリア イ ドイツ－ナミビア
- ウ フランス－モザンビーク エ ポルトガル－アンゴラ
- オ イタリア－リビア カ ベルギー－トーゴ